

令和6年

# 区民委員会会議録

とき 令和6年7月2日

品川区議会

令和6年 品川区議会区民委員会

日 時 令和6年7月2日(火) 午前10時00分～午前11時23分  
場 所 品川区議会 議会棟5階 第3委員会室

出席委員 委員長 高橋 伸 明 副委員長 吉田 ゆ み こ  
委員 せ お 麻 里 委員 ゆ き た 政 春  
委員 安藤 た い 作 委員 藤 原 正 則  
委員 石田 し ん ご 委員 おぎのあやか

出席説明員 川島地域振興部長 宮澤地域活動課長  
河合生活安全担当課長 今井八潮まちづくり担当課長  
築山戸籍住民課長 小林地域産業振興課長  
栗原創業・スタートアップ支援担当課長 辻文化観光スポーツ振興部長  
大森文化観光戦略課長 三井スポーツ推進課長

○午前10時00分開会

○高橋（伸）委員長

ただいまより区民委員会を開会いたします。

本日は、お手元の審査・調査予定表のとおり、報告事項、所管事務調査について、行政視察について、および、その他と進めてまいります。

本日も効率的な委員会運営にご協力をよろしくお願いいたします。

---

1 報告事項

(1) モンゴル高専等との連携協定および覚書の締結について

○高橋（伸）委員長

それでは、予定表1、報告事項を聴取いたします。

初めに、(1)モンゴル高専等との連携協定および覚書の締結についてを議題に供します。

本件につきまして、理事者よりご説明願います。

○小林地域産業振興課長

本日は、モンゴル高専等との連携協定および覚書の締結について、ご説明いたします。

お手元に配付しているA3の資料に沿って、品川区とモンゴルとのこれまでの取組をまとめた(1)の事業概要、そして、(2)の実績、さらに、(3)の5月のモンゴル公式訪問の報告の順に説明してまいります。

まず、(1)の事業概要からの説明になります。

区内中小企業の経営上の課題として、人手不足や技術者不足を挙げる声が増えてきたことから、品川区では、区独自の取組として、平成29年度（2017年度）より、日本式の高等専門学校教育および日本語教育を取り入れた、モンゴルの3つの高専との交流事業を通じて、区内中小企業における海外技術者の確保支援を進めてまいりました。

本事業の開始の背景としましては、かつて東京都立産業技術高等専門学校で教鞭を執られて、退職後から品川区の商工相談員に就任されている中西佑二先生がモンゴルで日本式の高等専門学校を立ち上げるプロジェクトに協力、参加されたことがきっかけとなっております。この人脈がベースとなって、モンゴル高専と品川区および区内中小企業との結びつきが強まりました。

この学校では、日本語を勉強し、日本での就職を希望する高専の学生たちがたくさんおりまして、この学生たちに向けたインターンシップや就職支援を行っております。

本事業におきましては、①から③のとおり、就職前のサポートから就職後までのフォローアップまでを、高専在学中から段階的に進めております。

①のインターンシップの実施支援については、毎年5月頃に区内中小企業の経営者の方々がモンゴルを訪問しまして、日本での就職に興味を持つ高専の学生との面接を行っており、その後、7月頃にインターンシップ生として品川区に招聘しております。

このインターンシップでは、ビジネスマナー研修や、日本文化を理解するための研修などを実施するとともに、学生が希望する区内中小企業で約1か月の就業体験を行います。

これまでは、インターンシップおよび就職のいずれも製造業の企業を中心に行ってきましたが、今年度からは、コンピューター工学科の学生を対象に、五反田バレーの情報通信企業へのインターンシップも実施することとなっています。

次に、②のインターンシップ・内定後の就職支援でございます。学生たちはモンゴル高専の授業など

で、既に日本語教育を受けておりますが、これに加えて、オンラインでの日本語講座も受講していただき、また、就職直前には、改めてビジネスマナー研修等も行って、品川区での就職に備えていただきます。

その後、区内企業に就職を果たした後も、③の定着支援として、モンゴル出身の就職者を対象とした定期的な勉強会や交流会の開催、区の職員、スタッフの各社訪問などによるフォローアップを実施しております。

(2)の実績でございます。新型コロナ禍の一時中断を挟み、インターンシップ受入れが累計で55名、本年度は17名が参加予定となっております。

また、就職については、7社、20名、本年度は9名が就職予定となっております。

(3)のモンゴル公式訪問。ここからは、5月8日から15日にかけて行われたモンゴル訪問について報告いたします。

訪問者は、森澤区長、川島地域振興部長、そして、私、地域産業振興課長をはじめ、企業側からは、区内製造業の経営者の方々、あるいは、今年度からインターンシップ生を受入予定の区内情報通信業の経営者の方々、そして、一般社団法人五反田バレエの代表理事などになります。

ページの右側に移りまして、今回の訪問内容を4つに分けてご説明いたします。

まず、①のモンゴル3高専との連携協定締結についてです。

冒頭でご説明したとおり、品川区では平成29年度(2017年度)より、日本式の高等専門学校教育および日本語教育を取り入れたモンゴルの3つの高専との交流事業を通じて、区内中小企業における海外技術者の活用支援を進めてきました。

モンゴルでの高専立ち上げに貢献され、品川区の商工相談員である中西先生の人脈などを活かして、これまでモンゴルとの関係を強化してきたわけですが、今回の森澤区長のモンゴル訪問に当たりまして、組織間の協力関係を改めて確認しつつ、これを安定的に継続・強化していくための連携協定を締結いたしました。

この連携協定は、区内企業でのインターンシップ実施、就職および就職後の定着支援、学生の技術力向上などの人材育成、高専卒業生で品川区に就職した方たちが帰国する場合の起業支援などについて合意しました。

お手元の資料には、森澤区長と3つの高専の校長先生との間で締結しました協定締結後の写真も掲載しております。

次に、②のモンゴル国教育・科学省およびJICAとの覚書締結についてです。

品川区および品川区企業とモンゴルとの関係を拡大・強化するため、大学や高専を所管するモンゴルの教育・科学省、そして、日本の外務省の外郭団体として、モンゴル市場において、両国の企業の成長・発展、スタートアップ支援などに力を入れているJICA(国際協力機構)をパートナーとした3者間の覚書を締結することとしました。

この覚書では、人材交流および人材育成、具体的には就職支援、学生の技術力向上等や、スタートアップの成長・発展支援、また、国際交流に資する事業の展開などについて合意しました。

人材交流および人材育成の面での協力関係をベースとしつつ、今後は、品川区の五反田バレエ企業とモンゴルのスタートアップ企業のビジネス交流などにも取り組んでいくこととしております。

お手元の資料には、森澤区長と教育・科学省の次官、JICAモンゴル事務所長との間で覚書締結のサインをした直後の写真を掲載しております。

次に、③の関係省庁・機関等への表敬訪問についてです。

①と②の訪問先に加えまして、その他の行政機関、または教育機関を訪問しております。ここでは、品川区とモンゴルとの連携・強化に向けた動きを報告、ご説明するとともに、品川区および品川区企業が今後進めていく事業への協力要請なども行ったところです。

お手元の資料には、左から在モンゴル日本国大使館の井川原賢特命全権大使、左から2番目がモンゴル国のデジタル開発通信省のウチラル大臣、左から3番目がウランバートル市のニャムバータル市長、一番右側が、モンゴル国立科学技術大学のツォルモンバータル副学長の皆様と森澤区長が会談を行ったときの写真を掲載しております。

一番最後、④のインターンシップ面接会の開催についてです。品川区の中小企業の経営者の方々は、例年5月頃に品川区の職員と一緒にモンゴルを訪問しまして、高専のキャンパスの中で、在学中の学生を対象にインターンシップ面接、あるいは就職内定後の最終面接などを行っております。この面接会を通じて、来週7月9日から開始するインターンシップの参加学生として、今回は17名が選ばれました。

また、今年の秋から冬にかけて就職を予定している9名の学生と、受入先企業の経営者が最終面談を行っております。

今回のモンゴル訪問を契機としまして、区内中小企業の人材確保、事業継続支援をさらに強化して進めてまいります。

以上、駆け足ではございますが、私から5月のモンゴル訪問の報告および品川区の取組状況などについて、ご説明させていただきました。よろしくお願いたします。

#### ○高橋（伸）委員長

説明が終わりました。

本件に関しまして、ご質疑等がございましたら、ご発言をお願いいたします。

#### ○安藤委員

丁寧な説明だったので、かなり分かりました。ありがとうございます。

インターンシップと就職の実績があるのですけれども、そもそも論で申し訳ないのですけれども、インターンシップと就職の違い。インターンシップというのは期間などがあるのでしょうかということや、あるいは従事する業務や待遇などはどう違うのかをご説明いただきたいのが一つ。

それと、訪問した中にも入っておられますけれども、現在の受入企業というのは、大体どのような企業なのかを少し教えていただけますか。

#### ○小林地域産業振興課長

ただいま、ご質問を3点頂きました。

まず、インターンシップと就職の違いというところでございますけれども、インターンシップは、今、品川区でやっているものでは、来週の7月9日からになるのですが、約1か月間の研修を行います。それは、企業の中で、具体的に言うと製造業、情報通信業の企業ですが、その中でやっていただく研修と、品川区が支援しているような集合研修といいますか、企業の枠を超えて行うような日本語の研修や、ビジネスマナーなどを含めた研修を行っております。

次に、日本に来ていただくときの航空券などの費用は、基本的に学生が負担するわけでございますけれども、実際のインターンシップに当たっては、企業から日当が出まして、その分については、一部品川区でも支援させていただいているものでございます。

3点目の質問ですけれども、現在、製造業のどのようなところでやっているかということでございます。

すが、令和5年度までで行きますと、基本的に全て区内の中小の製造業でございます。

今回からの新たな取組としまして、モンゴル高専の中でコンピューター学科があることから、来年に初めてIT関係の卒業生が出るということで、今年度からインターンシップで情報通信業も含めて対応してまいります。

#### ○安藤委員

製造業ということですが、小さいところはかなり人材不足に悩んでいると思うのですが、このようなことをやれるのは、ある程度大きな企業になるのかなと思うのです。少し規模が小さくて、人材確保に苦しんでいるようなところも、こういったことに関わることはできるのでしょうか。実態も含めて伺いたいと思います。そのようなことが可能であれば、ぜひ進めてもらえるといいのではないかなと思うのですけれども、そのようなつもりで聞いています。それが一つです。

それと、訪問団の資料がありますが、総勢何人だったのか。訪問費用は幾らぐらいで、誰が負担されたのかということも伺います。

最後に、右下のインターンシップの面接が、延べ人数82名で受入人数が17名ということで、数字だけ見ると狭き門になっているのかなと思うのですけれども、こちらの数字については、どのような理解をすればいいのか。なぜそうなっているのか、お伺いします。

#### ○小林地域産業振興課長

ただいま、3点ご質問を頂きました。

まず、1点目の今回のインターンシップや就職の学生を受け入れるとなると一定の規模が必要ではないかというご質問でございます。

その点は、やはりご指摘の部分がありまして、少数というとなかなか難しい部分がございます。

ただし、今回、情報通信業が初めてインターンシップを受け入れるというご説明をしましたが、実際は3社が1社ずつインターンシップを受け入れるということではなくて、3社まとめて受入れをする。つまり、同じところにずっといるということではなくて、今回は3社で受け持ちながらというやり方をとっております。ですので、インターンシップは就職の一手手前の段階ではございますけれども、このようなやり方も含めて、なるべく企業の負担を減らして、でも、日本のことも知っていただいているというやり方もあるのではないかなと思います。そういう点では、区内中小企業でモンゴル事業に興味をお持ちの方には、そのような方法もあるのだということを説明してまいりたいと思います。

2点目の質問として、訪問団は総勢何名かというお話でございます。

前半、後半と分かれてはいるのですけれども、合計で行きますと、35名という形になっております。費用につきましては、区の職員は、当然、区の職員旅費支給規定に基づくこととなりますし、企業については、旅費、ホテル代を自己負担していただいている形になってございます。

3点目のインターンシップ82名から17名というのは狭き門ではないかという部分でございます。

この部分、実は82名というのは「延べ」と書いてございますけれども、区内中小企業が今回行っている中で、併願して複数社に応募している学生がおります。実際、単純に82名というよりは、この中で何人か複数の会社を志願しているという形ですので、倍率で言うと2倍から3倍ぐらいかなという形で考えているところでございます。

#### ○高橋（伸）委員長

訪問団の費用について。

#### ○小林地域産業振興課長

失礼いたしました。

訪問団の費用でございますけれども、前半の品川区長や地域振興部長、我々が行った分につきましては、約180万円ということで計上しております。

**○安藤委員**

ありがとうございます。

**○高橋（伸）委員長**

ほかにご覧ですか。

**○おぎの委員**

ご説明ありがとうございます。

確認させていただきたいのですが、実績のところ、今までインターンシップが55名、就職が7社、20名とあります。この20名の方は、インターンシップを経ての就職の数なのでしょうか。

また、就職された方の3年後、5年後の定着率はどのようになっているか、数字は出ているのでしょうか。

**○小林地域産業振興課長**

ただいま2点、ご質問を頂きました。

まず、就職している方たちはインターンシップを経ているのかという質問ですけれども、品川区の取組で一番気をつけてフォローしているのは、事前にきちんと日本のことをしっかり知っていただいて、その上で就職していただく、なるべくミスマッチをなくすというところなんです。インターンシップで1回来ていただいて、その上で就職していただくという手順を必ず、踏んでおります。

また、2点目の質問の定着率でございますが、実際に事業が始まったのは2017年度からで、20名の中で現在も17名が区内企業に就職しております。

離職された方のお話を聞きますと、高専は出たけれども、やはり大学に行きたいというお話をされる方や、ご家庭の事情、あるいは日本語の能力が追いつかなかったという理由などで帰国された方もいらっしゃいました。

**○おぎの委員**

インターンシップを経て、理解してから就職していただくということで、思っていたのと違ったというミスマッチは本当に減らせるようになってきているのかなとは思いますが。

せっかくインターンシップに参加していただいて、参加した方の中から就職される割合がもう少し増えたらいいと思うのですが、何が障害になっているのかなど、そういったリサーチや意識調査みたいなものは、インターンシップの中盤などでしていたりするのでしょうか。

**○小林地域産業振興課長**

ただいまのご質問の点で、インターンシップの数より就職の数が少ないということでございます。

実際、学生がインターンシップで日本に来る中で、日本の別の企業、具体的に言うと、区内でも大手企業、特に品川区にある大手企業などからも、いろいろ声はかかっているようでして、そういう中で待遇の面や、あるいは技術の習得機会があるなど、いろいろ見比べながらというところもありますし、モンゴルという国柄、周囲が朝鮮半島や中国、ロシアというところもありまして、日本でインターンシップをした後も、就職や進学を含めて、その後の選択の幅が幾つかあるというところが、今後、課題と言えば課題です。その中で品川区の企業を選んでいただけるのかというところで、就職後もしっかりサポートなり、フォローをしていきますということを、今回の5月の訪問などで、学生にはPRしてきた

ところでございます。

#### ○おぎの委員

せっかく縁あって、日本のほうを向いて将来を考えてくれている学生たちですので、なるべく品川区内の中小企業で希望するところとうまく連携がとれたらいいなと思っております。

ちなみに、学生が来ていらっしゃる期間に、私たち議員が見学に行ったりすることはできますでしょうか。

#### ○小林地域産業振興課長

個別の企業の中でということになると、仕事期間中になってしまうのですが、区主催の集合研修中ということであれば、可能だと思います。

#### ○おぎの委員

ぜひ私たちもみんなで考えていきたいと思えます。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○ゆきた委員

1点あります。委員会の場で何度か質疑があったことですが、この事業が2017年に開始されてから数年たっている中で、その後の状況について、委員会の場では活躍しているとか、今、日本語がうまくできなくて帰られた方など、その後のことについてお話があったと思うのですが、区の発信の中で、例えば、離職された方が、日本で培ってきたものを活かしてモンゴルでどう活躍しているとか、この事業で就職された方が、今、活躍しているとクローズアップしていくことで、本当に素晴らしい事業だと思えるのですが、さらにこの事業で人と人との交流につながっていると実感していくことができると思えます。

もちろん区のリーダーの表敬訪問や、区と国との締結など、本当に素晴らしいことですが、やはり現場の活躍が共感、実感、親近感になると思えるので、ここについて何かあれば、お聞きしたいと思います。

#### ○小林地域産業振興課長

モンゴルとの科学技術交流事業につきまして、コロナ禍を除けば、ほとんど毎年モンゴルを訪問して、学生、あるいは校長先生も含め、学校の先生たちともいろいろコミュニケーションを図り、その中で品川区で働いている先輩たちのお話を説明したり、品川区に就職した人たちも一緒にモンゴルに行っていたら、今、自分はこのように働いているのだということを学生の前で話してもらい、日本での生活はこうなっているということも、いろいろPRしているところでございます。

人と人との交流という点では、なるべく我々も直接顔を合わせて、そして、自分たちの先輩、モンゴル高専を卒業されて、品川区で就職されている先輩の皆さんがどのように働いているかということにより分かりやすく説明しています。そのような中で、安心して来ていただいて大丈夫です、孤立するようなことはなく、その後の定着支援も含めてやっているということも、我々がモンゴル語に翻訳した資料や、直接の説明を通じて、丁寧にやっていきたいと思っております。

#### ○ゆきた委員

ぜひ区の発信で、ネットでも、今まで以上に発信されていると思いますが、さらに展開していただければと思いますので、よろしく申し上げます。

#### ○高橋（伸）委員長



ほかにございますか。

#### ○石田（し）委員

幾つか質問します。

まずは、2017年度からこの事業が始まったということで、この間、円安もあって、ドルベースで行けば、2017年度は110円前半ぐらいだったものが、今は160円になっている。そういった影響がどのように起こっているのかということ。

モンゴル自体が、今、それなりに経済が発展していているのだらうと思います。もう少し調べたら、最低賃金も、今年は一気に30%上がっているとされたときに、そのような影響はどのように生じているのか、分かる範囲で教えていただきたい。

あと、訪問内容の中の②で、人材交流や人材育成というのは、このように企業に入ってもらって、いろいろやっていただいているのは分かるのだけれども、「国際交流」と言ったところで、実際に品川区にとって、区民も含めて、どのようなメリットがあるのか、教えてください。

それと、もう一点が、今回、モンゴルの方たちにこのような事業を展開しているのですけれども、日本人で、そういった専門学校を出ている方たちの区内の中小企業とのマッチングはどのようにされているのか、教えてください。

#### ○小林地域産業振興課長

ただいま、4点のご質問を頂きました。

1点目は為替の影響がどう出ているかという部分でございます。この部分は、直接、今回訪問したときに、学生なり先生たちから出たわけではありませんが、2点目の質問と少し関連するのですが、モンゴルの中で国内の経済成長率がかなり上がってきていて、今年で言うともモンゴルは7%ぐらいの成長だという話です。

そうは言いつつ、国内の産業で、そのような学生を受け入れる企業がまだ十分育っていない。その中で、海外に目を向けているというところでございます。

やはり為替というのは、学生が将来、自分の待遇などを考えたときに影響が出てくる可能性はありますが、現時点で、今回も同行しました企業の社長たちから、そのような懸念の声がすぐに出ているという段階ではございません。

今までの経済発展で、モンゴルには基本的に石炭などの資源はたくさんあり、スタートアップも、これから力を入れていきたいというウランバートル市長からのお話もありましたが、日本での市場と申しますか、日本で就職されている先輩たちも多いということで、日本語を勉強したのだから、日本で就職したいという数は引き続き一定程度いるなど、我々は感じたところでございます。

3点目に国際交流についての質問がございました。

説明資料右側の①は「連携協定」としている一方、②は「覚書」と、あえて言葉を使い分けているところでございます。

モンゴル3高専とは、これまでにきちんと、連携関係ができていっているわけでございますけれども、今後、その関係をさらにもう少しウイングを広げて、今回、ここに具体的に書いてあります、スタートアップの成長・発展支援、あるいは、それ以外の部分も含めていろいろ連携していきましょうということで、覚書の中に国際交流という言葉を入れさせていただいて、今後、具体的にご相談、何かお話があれば、この覚書に基づいて友好関係を深めていきたいという内容でございます。

4点目は、日本の専門学校でのマッチングに関する質問でございます。

我々としても、区内にもありますが、高等専門学校から国内の日本人が就職するのが一番望ましいと考えており、それが一番、品川区の近くにいるわけですからストレートでいいわけですがけれども、学校の先生に聞きますと、高専で就職を希望している学生の就職率は99%で、高専生のほうが大学生よりも就職率がいいというお話を聞いております。

倍率はどれぐらいかという、高専の技術者ですと、20倍ぐらいの倍率があるということで、区内中小企業の皆様にお聞きすると、やはりここは狭き門で、みんな人材の取り合いになっています。そういう中でいろいろと国内の採用活動も力を入れつつ、一方で海外にもそろそろ目を向けないところ、今、実際に受入れをされている企業の実態なのかなと思っております。

#### ○石田（し）委員

なかなか経済の状況というのは、区でどうこうできることではないから難しいのですが、ぜひそういったものをいろいろ注視しながら、相手国との関係性を築いていっていただきたいと思います。

日本人の支援は、確かになかなか難しいからそちらに向いているということもあるのだろうけれども、一方で、最近の傾向で言うと、先ほど、少しお話ししたとおり、世界の経済が大きく変わっていて、円安も受けて、逆に日本で今まで働いている外国人たちの給料では、多分やっていけないというのが現状になってきているのです。

そうすると、今の話だと、日本人のほうがなかなか狭き門で大変だと言うのだけれども、この後、数年したら、下手したら、お給料の面で、外国人が逆に日本で働くことが困難。技術の面は、日本は最高峰の技術を持っているから、そこは学びたいと思うかもしれないけれども、一方で、学んだだけで、技術だけを持っていかれてしまうという懸念もあるのです。その辺をうまく考えていただきながら、お互いがウィン・ウィンになれる関係、先ほどの国際交流もそうですけれども、区民にとっても、区にとっても、モンゴルの子たちにとっても、みんながウィン・ウィンでやれて、将来的にも、このことお互いにいろいろな発展があればいいなと思うので、ぜひその辺はさらに取り組んでいただければなと思います。

これは要望で終わりますので、ぜひよろしく申し上げます。ありがとうございました。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○藤原委員

訪問者についてお伺いするのですが、区長を含めて、区の職員の方、3人で180万円というお話ですが、大体1人60万円と考えたら、区内製造業の人や、区内情報通信業や、五反田バレーの方なども、大体お一人60万円ずつ払って行ったのですかという確認。

それと、区内製造業、区内情報通信業と書いてあるけれども、全部区内中小製造業なのですか。区内中小情報通信業なのですか。まず、その確認。

#### ○小林地域産業振興課長

ただいま、2点、ご質問を頂きました。

今回、出張に行ったメンバーでございますが、区長と部長と私の3人以外にも職員が同行しております、入れ代わりで約10名で行っており、それも含めた旅費となっております。3人で180万円ということではなくて、ほかの職員も含めてという形になります。

そのため、他の職員分も含めると、1人当たりの旅費はもう少し低くなります。これが1点目の質問に対するお答えです。

○藤原委員

先ほど、それは説明していませんよね。

○小林地域産業振興課長

失礼いたしました。課長以下、係長、職員も一緒に行っております。

〔「写真には写っているから大丈夫」と呼ぶ者あり〕

○小林地域産業振興課長

写真の左下の写真は、モンゴル高専の建物の前で、学生の皆さんが我々を歓迎してくれている集合写真ですが、この中に出張に同行した職員も一緒に写っています。

2点目のご質問として、中小情報通信業か、中小製造業かというお尋ねですが、これらは全部区内の中小企業でございます。

○藤原委員

そうすると、1人十何万円ずつぐらい払って訪問して下さったということですか。そこを改めて確認です。

もういろいろな方の質問に答弁して下さったけれども、八潮になるのですか、都立高専があります。今回はモンゴル高専のことですけれども、一番は都立であるけれども、都立高専、日本の高専という意味においてという思いも、中小企業にはあるのです。

ですが、先ほど、答弁なさっていたけれども、本当に都立高専の就職率はすごくいいのです。都立高専から大企業に入られて、大学に行かれる方も、残り2年ぐらいで大学に入っていくという状況ですから、そういう意味で、日本の都立高専から大企業に入っていて、だから、中小のところということがあろうと思うのです。八潮の都立高専との連携等を含めて、どのようにしていくかということと、せっかく区内製造業、情報通信業、五反田バレーの方たちが行ってくださっているわけですから、この方たちへの区の助成はないわけです。あるならあると教えてください。

ですから、ぜひ投資対効果という意味で、見守って行ってあげたいと思うのですけれども、その辺について、区、行政としてはどう考えているのか、教えてください。

○小林地域産業振興課長

ただいま、2点、ご質問を頂きました。

都立高専との連携というところでございます。直近の例で言いますと、都立高専にもちゃんとアプローチをしております。先月のことになりましたが、東京商工会議所品川支部に入っている中小企業の方たちが、都立高専で学生への説明会や、個別面接を実施しまして、数十人規模で集まってくれました。いろいろ人気の大企業からも声がかかっている中、中小企業の説明会にも集まってくれているという話もありますので、このような都立高専、技術者や学生の採用につながるような支援を、品川区としてもしっかりやっていきたいと思っております。今回のモンゴル高専に限らずですけれども、インターンシップについての日当の一部を品川区が負担するという支援制度もありますので、そのような中で、少しでも学生に区内企業を経験してもらおうチャンスを増やしていく支援をやっていきたいと思っております。

○高橋（伸）委員長

あと、訪問企業の旅費の負担について。

○小林地域産業振興課長

モンゴル出張における企業の旅費の負担の部分でございますけれども、航空券や宿泊分は、企業に負担していただいております。これは、採用活動における必要経費と言いますか、その分を払ってでも人

材を確保したいという強い気持ちの現れであろうと考えております。

#### ○藤原委員

私はモンゴル高専も大事だと思っておりますが、毎回、予算特別委員会のときもお話ししましたがけれども、やはり、まずは日本人と思っておりますので、モンゴル高専も大事です。だけど、まずは日本人の職業、または中小企業の支援という意味でやっていただきたいと思う。これは、答弁が欲しいなと思っておりますので、よろしく願います。

もう一点は、質問する中で、だんだん分かってきたことは、最初は3人だけ行かれていたと思ってしまいました。でも、延べ10人で、前後でやっているということは、区の職員がそれだけ海外に行かれていないということではないですか。費用も時間も含めて、モンゴルに対してやられているということですから、投資対効果という意味においては、しっかりした成果を出していただきたいと思うので、それについても、最後にお伺いします。

#### ○小林地域産業振興課長

まずは1点目の質問として、都立高専など、日本国内の人材確保支援というところでございます。

この点、モンゴル高専の海外の技術者も含めた採用確保をやっていかなければいけない状況にあり、これは政策手法の中の一つであると思っております。当然、国内の就職支援、企業の人材確保、あるいは人材育成も必要だと思っております、そういうところも含めてしっかりやっていきたいと思っております。

2点目でございます。今回、モンゴル高専への出張に関して、若手職員も一緒に行っております。これは、企業のサポートという面が大きく、あとは、現地のモンゴル高専の学校の先生、校長先生との連絡なり調整というのもあるのですけれども、そういう中で、この事業が就職や、インターンシップという形につながっております。そして、今回、我々も耳にしたありがたいお言葉ですけれども、品川区の職員が同行してくれるので、例えば、学校も普通にキャンパスをただで貸してくれるし、授業時間も融通して、面接の時間をつくってくれる。行政機関、公的機関が一緒に行ってくれるか、行ってくれないかは大きな違いでして、もし、これを一社や一人で自費でやっていたら相当な負担になるだろうということで、この事業でも区内中小企業をサポートしております。そういう面で、区の職員はサポートはしっかりやっていきまして、その中で、費用対効果も出していきたいと思っております。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○石田（し）委員

すみません。申し訳ない。1点、聞き忘れました。

今の藤原委員の話にもあった、職員の方たち、今のを聞いている限り、すごく一生懸命やってくれていて、いわゆるマッチングで区内企業の方たちにとっても、すごく存在が大きいらしいのです。

もちろん、区の職員ですので、4月に異動もあって、いろいろあるのは分かるけれども、ほかの事業と少し違って、国際交流も入ってくるし、区内企業との関係性など、特殊な事業ではないですか。そういうときに、すごく熱心に頑張っていた方たちが異動でいなくなって、もちろん新しい人がいい、悪いではなくて、それをしっかりと継承していただいて、区内企業の方たちにも安心して継続的に事業が行われていくのだという安心感を持ってもらうために、環境づくりというのは、皆様の力がかかってくるのかなと思うので、ぜひその辺を丁寧に、職員の方たちが頑張れる環境づくりを進めていただきたいし、そういったすごい思いを持ってやられていた人たちが離れたこともあると思うので、そういっ

た人たちの思いもちゃんと受け継いでいていただきたいなと思うのですけれども、その辺で、もし何か思いがあったら教えてください。

#### ○小林地域産業振興課長

区の職員である以上、一定のサイクルでの人事異動というのは避けられないわけですが、今回、部長や私と一緒にいったメンバーの、将来的な異動の可能性も含めて考えております。例えば、仮に来年、今回出張した職員が異動して、経験者が誰もいないということがないように、経験を積ませるといいう意味でも、今回、それなりの人数に担当させました。こうした経験を積ませて、また、その経験が産業部門だけではなくて、別の部門でも生きてくるかなと思っておりますので、そういうことも意識しながらやっていきたいと思っております。

#### ○石田（し）委員

ありがとうございました。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

#### ○高橋（伸）委員長

ご発言がないようですので、以上で本件を終了いたします。

---

(2) 品川区立品川産業支援交流施設指定管理者候補者の公募について

#### ○高橋（伸）委員長

次に、(2)品川区立品川産業支援交流施設指定管理者候補者の公募についてを議題に供します。

本件につきまして、理事者よりご説明願います。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

それでは、私から品川区立品川産業支援交流施設、いわゆるSHIPの指定管理者候補者の公募についてご説明させていただきます。

お手元に資料を配付させていただきましたので、こちらで説明させていただきます。

まず、1番の「趣旨」でございます。

品川区立品川産業支援交流施設は、平成27年の開設当初より指定管理者制度を導入しているところでございます。

今年度、令和7年3月31日をもって、指定管理期間が満了しますので、新たな指定管理者を公募するということでのご報告でございます。

続きまして、2番の「指定管理者が管理を行う施設」でございます。

名称が、品川区立品川産業支援交流施設でございまして、所在地は、こちらに記載のありますとおり、大崎ブライトコアというビルの3階および4階でございます。

3番の「指定管理者が行う主な業務」でございます。

代表的なものは、(1)施設の管理、運営に関すること、(2)施設・設備の使用承認および利用料金の徴収に関すること、(3)産業振興事業に関することなどとなっておりますのでございます。

4番の「指定期間」でございます。

令和7年4月1日から、令和12年3月31日までの5年間です。

5番の「指定管理者候補者の選定」でございます。

(1) 「選定方法」につきましては、簡易型プロポーザル方式（公募型）に沿って行う形になります。

(2) 「選定委員会の設置」でございます。

候補者の選定に当たりましては、「品川区立品川産業支援交流施設指定管理者候補者選定委員会」を設置するものでございます。

(3) 「選定基準」でございます。

こちらは、下に書いてあります①から⑥を基準に設定して選定するものでございます。

おめくりいただきまして、6番の「今後の予定」でございます。

この後、7月12日より募集要項を配布します。

8月に指定管理者候補者選定予備委員会を開催いたしまして、その後、9月に指定管理者候補者選定委員会を開催いたします。

その後、区議会第4回定例会に指定管理者の指定の議案を上程し、ご審議を頂く予定でございます。

この指定の議決を頂けましたら、3月に指定管理者業務に関する協定を締結しまして、4月より指定管理者業務の開始というスケジュールで進めてまいる予定でございます。よろしく願いいたします。

#### ○高橋（伸）委員長

説明が終わりました。

本件に関しましてご質疑等がありましたら、ご発言をお願いします。

#### ○安藤委員

資料に基づいて幾つかお伺いします。

3番の「指定管理者が行う主な業務」というところで、「産業振興事業に関すること」、「自主事業に関すること」とありますけれども、少し確認ですが、現在の指定管理者はどこなのかということと、実際に今、どのような業務を行っているのか、伺いたいと思います。お願いします。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

2点、ご質問を頂きました。

1点目、現在の指定管理者につきましては、品川ビジネスクラブと、株式会社マグネットスタジオの共同事業体でございます。

産業振興事業と自主事業でどのようなものを行っているかというところでございます。

まず、1点目はセミナーの開催でございまして、こちらの施設は創業前、創業したての方たちが多く利用されていますので、そういった方向けの創業に向けたマインド醸成のセミナーや、事業計画を作るといった指導などしております。

また、インキュベーションマネージャーというものを配置しておりまして、個別に彼らの事業の進め方に沿った伴走支援を行っております。

それから、2点目は交流会を行っておりまして、施設で定期的に利用者が交流できる機会を設けております。

3点目は、工房がございまして、工房の運営、それから、事務室の運営、会議室の運営といったものがございまして。

自主事業につきましては、ビジネス創造コンテスト、いわゆるビジコンを行っておりまして、3階の大崎ブライトコアホールで年に1回、大々的なコンテストを行っております。

それから、クラウドファンディングを利用して、起業家の皆様が資金調達をする機会の提供を行って

います。

#### ○安藤委員

現在、区の幹部職員の方が、こちらの指定管理者のところに再就職、いわゆる天下りをしているのでしょうか。そこら辺について伺いたい。いわゆる再就職、幹部職員だった方が、こちらに再就職したという事実はありますかということをお聞きしたい。それは確認です。

それと、5の選定基準ですけれども、「少ない経費で高い事業効果が得られるよう工夫していること」、これは大体指定管理では入っていると思うのですが、本施設においては、どのようなものが考えられるのか。区としては何を期待しているのかということをお伺いの2つ目。

3つ目、裏面ですけれども、「今後の予定」で募集要項の配布とあります。これは、どこにどのような手段で配布して、また、何社ぐらいを想定しているのか、分かればお伺いします。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

3点、ご質問を頂きまして、1点目、区の幹部職員が再就職されているのかというお話でございます。品川ビジネススクールの理事長職に元副区長の方が就いています。

それから、元部長職の方が事務局長になっております。

2点目の、「少ない経費で高い事業効果」は、どのようなことを見込んでいるかということでございますけれども、こちらの産業支援につきましては、やろうと思えば、いくらでもできるといったところではございますけれども、やはり限りある予算で、この施設により多くの起業家が集まって、それらの方たちがより多く起業して成長していくといったことを期待しております。

3点目の募集要項の配布についてでございますけれども、こちらは地域産業振興課の窓口での配布、それから、区ホームページ、品川産業支援交流施設のホームページで配布を予定しております。

応募につきましては、区としては、より多くの企業の応募を期待しているところでございます。

#### ○安藤委員

選定基準の③のところについては、少ない経費で高い事業効果が得られるというのは、施設の特性上、限界があるのではないかと思います。そこについて、どのようなことを期待しているのか。施設全体の期待というよりも、区としてはどうやって経費を削減してほしいと思っているのかということを知りたかったということで、これはもう一回質問したいと思います。

あと、再就職の件については、トップに再就職しているということです。この理由は何なのか。それが知りたいというか、区としても理由をどう考えているのか。向こうからの要請なのか、再就職について、こういう意味があるとか、区としてはどのように考えているのか、そこについて聞かせていただければと思います。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

2点、ご質問です。

1点目の少ない経費についてですけれども、こちらは安定的な運営をしていくには、それなりのスタッフの人数や費用は、当然、かかるものと認識しております。その中で、スタッフ一人ひとりに産業振興に関するスキルやノウハウといったものをお持ちの方をアサインしていただくことで、必要以上に人を配置しなくても済むという形を考えているところでございます。

2点目の理由につきましては、今、たまたま指定管理を担っているビジネススクールのそういった方たちがいるというところでございますので、今後、区としては、指定管理を行うのが、どういった方たちになるのか分かりませんが、それが、たまたま区の職員の方たちが入っていたところになったと

考えています。

#### ○安藤委員

私も区民委員会の一人なのであれですけども、この件の人事については、これからもいろいろ検討していきたいなと思っていますので、今日は聞いてみました。

それと、経費のところですが、本当に産業振興、スタートアップ振興を区が行政として行うということであれば、先ほど課長が言ったスキル、ノウハウ、安定的にスタッフの技術は必要ですし、スタッフの方がそういうスキルをどんどん積み上げていくという体制はすごく大事だと思うのです。

そのことと経費削減というのは、結構矛盾するところがありまして、スキル、ノウハウを上げていけば、確かに必要以上にスタッフの人数を配置しなくて済むのですけれども、スキル、ノウハウを上げるためには、安定的に人が継続して勤められなくてはいけないというところがあって、そこと少ない経費でという点が最大の矛盾かなと思っていますので、産業支援交流施設の運営の在り方というものも、そういった点からも総合的にいろいろ考えていかななくてはいけないのではないかなという感想を持ちました。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○おぎの委員

ご説明ありがとうございます。

私からは2点お伺いします。

先ほど、公募は窓口やホームページなどということをお聞きしましたが、もしそこに応募してきて、選定した結果、いいねとなれば、今の指定管理者が継続する場合もあり得るということでしょうかというところが1点。

あと、選定基準が①から⑥までありますけれども、その選定する方法の項目をつかって、採点表形式など、後で誰が見ても分かりやすいものでやっていただけるといいなと思いますが、その点はいかがでしょうか。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

2点、ご質問を頂きまして、1点が広報についてでございますけれども、この後、ホームページ等で広報させていただくところがございます。

その後、現地で応募者説明会を行います。それを経ての審査になるのですけれども、今の指定管理者がもう一度指定管理者になり得るのかというご質問につきましても、その可能性は選定を経て、同じ指定管理者になるという可能性は十分考えられます。

2点目の選定方法につきましては、区で採点基準をあらかじめ設定しまして、1次の8月の予備委員会では書類審査を行いまして、9月の選定委員会で面接審査。そちらを経て、それぞれ採点表に基づいて決定していくところでございます。

#### ○おぎの委員

公募の形でやる気のある企業がたくさん応募していただけるといいなと思っております。

その結果についても、透明性を持って、誰が見ても公平だと納得していただけるような形をとっていただければと思っていますので、ぜひよろしく願いいたします。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○ゆきた委員



今回3期目で、プロポーザル方式で行われるということですが、前回のプロポーザル方式のときは応募が1者のみということだったと思います。やはり競争原理をさらに働かせていくといったところでは、どういう改善をしていくのかと、あともう一点が、選定基準の⑤のところ、妥当性、独自性、実現性とありますけれども、独自性といったところで、どういったことを求めているのか。この2点をお聞きしたいと思います。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

2点、ご質問を頂きまして、前回は1者で、今回どういった競争原理を働かせるかということですが、区としましては、申込期間、応募期間に1か月ぐらいの長い周知期間をとっているところがございます。

2点目は、応募説明会で、今やっているサービスや、利用者からの声など、区がこれから期待することなどを丁寧にご説明させていただきます。

こちらのSHIPはとても稼働率が高い施設でございますので、指定管理者からしても魅力のある施設かなと思いますので、そういった施設のポテンシャルを感じ取っていただいて、幅広い方に応募いただくということを期待したいと思っております。

2点目の選定基準の独自性につきましては、行政が行う産業施策はいろいろあるのですが、その中で、より多くの企業の成長促進を期待しているところがございますので、どれだけ提案者が事業の成長に寄与するのかといったところで、提案の差別化を期待しているところがございます。

#### ○ゆきた委員

数多くの応募があるように、不断の努力の改善が求められるような、より区民にとって不利益のない形で、また、選定期間も1か月間取られるということで、予備委員会の開催など、これからも予定されているところだと思われまますので、公平な選定になるように進めていただければと思います。これは要望で終わります。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにごありますか。

#### ○石田（し）委員

2点あって、まず1点目が、2期、9年ちょっとやられていて、これまでの課題は何があって、3期目には、その課題をどうやって解決していくために指定管理者の募集をかけるのかということが1点。

もう一点は、今やられている株式会社マグネットスタジオは、今回、新たにできた五反田JPビルディング内のホールもご担当されていると思うのですが、そういった意味になると、立地も非常に近いところで、様々な連携がとれることを見越して、五反田JPビルディング内のホールの運営を任されているのだと思うのです。実際、いろいろと五反田バレー等も含めて、連携してやられていると思うのですが、そういったものが、もし仮に指定管理が違うところに行った場合に、どのような懸念材料があるのか、その2点を教えてください。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

2点、ご質問を頂きまして、まず1点目、課題についてでございます。

こちらの施設は9年ちょっとたっているところがございますが、依然、利用者の満足度は90%を超える、高い満足度を得続けているといったところは評価しております。

一方で、施設が開設して10年たったところで、その間、ほかの創業支援施設が、他区も含めて開設したりといったところがございますので、やはり設備の見直しや、中身の支援メニューの見直しは、当

然必要なところかなと思っております。

また、会員からも、もう少し交流を活発化してほしいというご意見も頂いていますので、そういったところは、今後、より促進していくことと思っておりますし、我々の組織としても、創業・スタートアップ支援担当というものができまして、スタートアップにも、より注力していくという区の姿勢がございまして、そういったところも酌んだ施設を今後は目指していくことを期待しております。

2点目のマグネットスタジオについてですけれども、おっしゃるように、今、五反田の産業文化施設も指定管理を担っていて、連携が図れているといったところは強みかなと考えております。

ただ、ホール運営をしているところは、いろいろなところがございますので、もしほかの会社が独自の営業ツール、営業ノウハウを持っていて、連携しなくても高い稼働率を誇れるということであれば、それは区としてはお任せする一つの要因になろうかなとは思っておりますので、そこは選定基準にのって審査をしていきたいと考えています。

#### ○藤原委員

このような公式な委員会で議事録が残る中で、区のOBが指定管理のところに行くというのは、「偶然です」と答弁なさったわけですから、偶然なのでしょう。偶然行かれていますと議事録に載るような、正式に偶然ということで、私が思ったのは、ほかの指定管理に関しても、区のOBの方が行かれていますところがあるけれども、それも、そういう意味では偶然だと答弁なさっていたから、偶然なのですよねというか、偶然だと思います。

では、偶然ではなくて、例えば、今の指定管理のところ、たしか地域産業振興課長が、区民委員会でSHIPへ視察に行ったときに、今の課長という立場だったか、分かりませんが、記憶が間違いないければ、今の課長がいらっしゃったような気がするのです。それは、もちろんOBではなくて、区の職員です。これは、どのような形でSHIPに行かれていますのでしょうか。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

先ほどの答弁が誤解を招いてしまいまして、すみません。

まず、品川ビジネスクラブですけれども、品川区が出資している団体でございます。そういったところで、品川ビジネスクラブとは協定を結んでいるところでございまして、職員の派遣というのは、これまでも行っていたところでございます。そこで、区の職員が品川ビジネスクラブに派遣されて事務局長を務めていた時代もございます。

また、理事の選任は、理事会で選任されて就くところでございますけれども、今の理事長は、その前に区の副区長という身分で副理事長に就かれていたわけございまして、その中で理事長交代というときに、理事会の中で、次の理事長には副理事長を選任しますという決定で、今、就いているといった経過でございます。

#### ○藤原委員

今の答弁でよく分かりました。副理事長が理事長になったのですということで、そのような答弁をしていただければよかったです。

それを、私の聞き間違いだったらすみません。「偶然」という形で答弁してしまうと、議事録に「偶然」と残ってしまいます。だから、ちゃんと私以外の委員が質問したことに関して、今の答弁を言っていただければ、それでよかったのだと私は思うのです。でも、「偶然」という言葉が残ってしまうと、全部「偶然」になっているのだと、だから、あえて言ったのです。ほかの指定管理もOB、区を退職なされた方が毎回行かれていますというのがあるので、そこを不思議と思ったので伺いました。今の答弁でよ

く分かりました。

あと、最後に、ここは1回目の指定管理の変更というか、プロポーザルだと思うのですが、今回、ほかの委員も聞いてくださったけれども、この頃、品川区の住宅系は別としても、品川区の指定管理は1者、1つしか来ないということが多ございまして、それでは、指定管理という名前どおりです。区が管理するところを指定してしまっている。それが指定管理というふうにも取れるように、プロポーザルにならない指定管理が多いではないですか。それは、本当にいかがなものか。それで、区のOBの方が行く。退職なされた方が指定管理に行くというシステムができてしまうと、指定管理というのは、最初に制度を入れたときには、そういう意味ではなかったと思うのです。課長にこのことを訴えるのは、少し話が大き過ぎるかもしれない。

でも、そういう意味において、ぜひプロポーザルになるように、いろいろな方に広げて、ちゃんとしたプロポーザルで、いろいろなところが、うちはこういうことができます、こういうふうな区に貢献できます、区民にとってこれだけプラスになりますという形になっていってくれることを本当に心から願っているのです。そのようなプロポーザルができるようにしていただきたいと思うのですが、その辺についてはいかがでしょうか。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

1者ということで、前回も1者だったというのは、私も認識しておりますので、今回、広く応募があるように、指定管理制度のルールにのっとって、公正にやっていきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

#### ○藤原委員

よろしくをお願いします。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○せお委員

私からは1点だけ。私が無知で申し訳ないのですが、2期までやってこられたということで、3番、「指定管理者が行う主な業務」や、5番の（3）「選定基準」などは、これまでの2期と変化はあるのでしょうか。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

こちらの3番の「指定管理者が行う主な業務」というのは、品川産業支援交流施設条例に指定管理者が行う業務ということで規定しておりまして、こちらについては、特に変更はございません。

「選定基準」についても、大きな変更はございません。

#### ○せお委員

先ほど、石田しんご委員からもありましたけれども、満足度が高いとはいえ、小さなことかもしれないですが、必ず課題なども出てくるだろうし、せっかくだから新しいことも始めてほしいなという、私の中で細かいところはあったのですが、気づくのが遅くてすみません。

でも、主な業務は大きくくってあるなというところがあるので、ぜひ、これからの指定管理者には、新たなことにも挑戦できるような管理者を選んでいただきたいという意味を込めて要望いたします。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○吉田副委員長

いろいろご説明ありがとうございました。

会派でも視察に行かせていただいておりますので、また、今日の議論の結果も会派の中で報告したいと思いますが、やはり指定管理者に応募してくる団体が少ないというか、1者というのは、そのこと自体が課題かなと思っております。

先ほどの募集要項の配布ですけれども、もちろんホームページなどいろいろな工夫はされていると思うのですが、もう少し広く募集するような工夫はされないのでしょうか。やはり1者というのは、その募集自体に課題があると捉えざるを得ないと思うのですけれども、その辺についてはいかがでしょうか。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

周知をどれだけ広くするかというご質問かと思えます。

先ほど申し上げたように、ホームページでご案内をしますことに加えて、区のSNSなども含めて周知は行ってまいろうと思えます。

それから、SHIPが10年たつということで、割と創業支援施設を担う業者も業界では限られていて、幾つかSHIPの指定管理の切替えはいつですかというお問合せを頂いていますので、そういったところでは丁寧にご対応するというところで工夫を図っているところでございます。

#### ○吉田副委員長

ちゃんと公平に募集しなければいけないと思うのですけれども、そのようにお問合せがあるところには、ぜひ応募してくださいというお声かけもお願いしたいのと、それから、区民委員会でも、いきなり結果ではなくて、もう少し過程が分かるようなご報告をいただきたいと思うのです。特に、私はSHIPに限らず、今までもいろいろな指定管理者の指定のときに、契約金額の算定がどのようにされているのかが、自分の知識不足もあって分かりにくいところがあるのです。金額について、どちらが先に、どのように提案するのかというところ。これは、私の課題なのかもしれませんが、選定の過程で、決定の前に、このような形で金額などを算定していきますということが分かるようなご報告を頂きたいと思うのですけれども、その辺についてはいかがでしょうか。

#### ○栗原創業・スタートアップ支援担当課長

2点、ご質問を頂きまして、過程が分かるようにということでございます。

こちらについては、品川区指定管理者制度活用に係る基本方針というものがございまして、それに沿ってのご報告になろうかというところでございます。

次の契約金額の算定についてでございますが、こちらについては、まず募集要項で、かかるであろう費用のところはこちらで提示させていただきまして、提案者からご提示を頂くといったところでございます。

その後、候補者が決まりましたら、候補者と区の間で基本協定を結びまして、それで契約金額を決定していくといった流れでございます。

#### ○吉田副委員長

分かりました。

私も勉強しなければいけないと思えますけれども、ぜひ、なるべく分かりやすいご報告を頂きたいと思えます。これは要望にとどめます。よろしくお願ひします。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○高橋（伸）委員長

ご発言がないようですので、以上で本件および報告事項を終了いたします。

---

2 所管事務調査について

○高橋（伸）委員長

次に、予定表2、所管事務調査についてを議題に供します。

所管事務調査の項目については、前回の委員会を含め、期日までに追加意見等をお願いしておりました。

委員の皆様より頂きましたご意見・ご要望を踏まえて、正副委員長で検討させていただきました結果、今年度の区民委員会の所管事務調査につきましては、お手元に配付のとおり、「創業・スタートアップ支援について」および「デフリンピックの啓発について」の2項目とさせていただきます。

内容といたしましては、まだ大まかではございますが、まず、「創業・スタートアップ支援について」は、今年度の組織改正に伴い、新たに創業・スタートアップ支援担当が設置されたことも踏まえ、現在の取組や課題、今後の展望などについて、「デフリンピックの啓発について」は、来年開催されるデフリンピックの啓発を中心に、デフスポーツをはじめとするパラスポーツに関する取組について、それぞれ調査・研究を行ってまいりたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、説明させていただきました。

時間の関係もあり、ご要望の全てを取り上げるということではできませんでしたが、このような形でご了承いただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○高橋（伸）委員長

ありがとうございます。

それでは、さよう決定いたします。

次回以降の委員会から調査を行っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

また、理事者におかれましても、いろいろな資料をお願いするかとと思っておりますけれども、よろしく願いいたします。

以上で本件を終了いたします。

---

3 行政視察について

○高橋（伸）委員長

次に、予定表3の行政視察についてを議題に供します。

行政視察の調査項目・視察先の希望については、前回の委員会を含め、期日までに追加意見等をお願いしておりました。

期日までに委員の皆様より頂きましたご意見・ご要望を踏まえ、視察の日数や調査項目等、視察の内容について、正副委員長で検討いたしました。

まず、視察のスケジュールにつきましては、第3回定例会後の10月28日月曜日から11月1日金曜日のうちの2泊3日になろうかと思っております。

ただいま申し上げた日程での実施について、ご意見がある委員はいらっしゃいますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

#### ○高橋（伸）委員長

次に、調査項目等、視察の内容です。

こちらについては、次回の委員会で、日程や調査項目等の正副委員長案をお示ししたいと考えておりますが、現段階では、頂いた意見を参考に、アフターコロナのインバウンド需要の取組などをテーマに、岐阜県高山市を中心に中部方面を候補として考えています。

現時点での候補を踏まえ、視察項目や視察先について、ご意見等がございましたら、ご発言をお願いいたします。

#### ○安藤委員

所管事務調査の項目と関連があるところをぜひということをお願いしたいことと、所管事務調査でも出させていただいた、今回、残念ながら取り入れられませんでした。八潮まちづくり担当ができて2年目だと思うのですが、そういったところを委員会としても八潮の団地のこれからということを探る意味でも必要があるのではないかなということもありまして、もし可能であれば、別に最終日はこちらに戻ってきて東京でも私はいいと思っているのです。あるいは、初日は東京でやって、2日目から行ってもいいと思うのです。

やはり私は八潮のことを、八潮まちづくり担当もできているわけですから、そういう意味でもいいかなと思います。要望です。

#### ○高橋（伸）委員長

ありがとうございました。

それでは、頂いた意見等を参考に、再度、正副委員長で検討していきます。

次回の委員会で、改めて、日程、調査項目等の案をお示ししたいと思います。

なお、本日以降も、追加のご意見等がございましたら、7月9日火曜日までに事務局へ提出をお願いしたいと思います。

以上で行政視察についてを終了いたします。

---

#### 4 その他

##### (1) 議会閉会中継続審査調査事項について

#### ○高橋（伸）委員長

次に、予定表4、その他を議題に供します。

初めに、(1)議会閉会中継続審査調査事項についてでございます。

本件につきましては、これまで紙でお配りしていましたが、今回より電子データでの配付となっておりますので、ご案内いたします。

それでは、配付の申出書（案）のとおりでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

#### ○高橋（伸）委員長

それでは、この案のとおり申し出ます。

なお、今後、取り扱う行政視察に関連する資料も電子での配付となりますので、ご了承ください。

以上で本件を終了いたします。

---

##### (2) 委員長報告について

**○高橋（伸）委員長**

次に、(2)委員長報告についてでございます。

昨日の議案審査の結果報告については、正副委員長にご一任いただけますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

**○高橋（伸）委員長**

ありがとうございます。

それでは、正副委員長でまとめさせていただきます。

---

(3) その他

**○高橋（伸）委員長**

次に、(3)その他で何かございますか。

**○三井スポーツ推進課長**

では、私から、夏季屋外プールの開放について、資料に基づいて、ご説明・ご案内させていただきます。

資料をご覧ください。

まず、項番1、「目的」は、記載のとおりでございますが、区民の方が遊泳を楽しめる機会を提供するものでございます。

項番2の「開放施設」ですが、2種類ございまして、1つ目は、しながわ区民公園の屋外水泳場でございます。

開放日程は記載のとおりになりますが、時間帯は午前、午後、夜間の3つで入替制となっております。

1枠当たりの定員は500人となっております。

使用料は、記載のとおりで、④の「予約方法」につきましては、例年、混雑が予想されている土・日・祝日につきましては、予約システムで受付を行います。

申込者が定員を超えた利用日につきましては、抽選を実施しまして、利用者を決定するものでございます。

それから、もう一種類、(2)の学校のプールでございます。こちらの開放実施校は記載の7校となっております。

開放日程は7月20日から8月4日の土・日の6日間で、使用料は無料となっております。

3番の「周知方法」ですが、こちらは広報しながわ、チラシ、ホームページということで、周知をしております。

**○高橋（伸）委員長**

説明が終わりました。

それでは、本件に関しまして、ご質疑等がございましたら、ご発言をお願いします。

**○おぎの委員**

ご説明ありがとうございます。

1点だけ。学校のプール開放校ですけれども、昔、伊藤学園もやっていたと思うのですが、今はもうされていないのでしょうか。

**○三井スポーツ推進課長**

伊藤学園は、過去にプール開放をしておりましたが、学校の事情もありまして、今は開放していない

状況で、学校の開放というのは、学校のほうに負担のかかる部分もありまして、学校と協議しながら、今できるのはこの7校。あとは、源氏前小学校も開放校になっているのですが、今は工事で使えませんので、現在は記載している7校となっている状況です。

#### ○高橋（伸）委員長

ほかにございますか。

#### ○石田（し）委員

1点だけ。区民公園の屋外水泳場ですけれども、来週から開放されるのです。これは、いつからスタートということが全然周知されていないです。僕は結構調べただけけれども、どこにも出ていないのです。せっかくこういった施設があるのに、1週間前でないと、いつからスタートということが分からないのはいかがなものかと思うのです。

多分、この期間というのは、例年どおりで行けば、7月から9月ぐらいと、ある程度決まっているわけですね。

なので、楽しみにしている区民の方たちが、いつからスタートするのも分からない、1週間前に急に「来週からオープンです」と言われても、スケジュールを立てづらいではないですか。ぜひそういった周知の方法は考えていただきたいと思うのと、もう一点は、これは別に区民だけではなくて、区外の方もご利用できるのですか。その点を教えてください。

#### ○三井スポーツ推進課長

周知の面は、直前になってしまって申し訳ありません。一応、広報しながわ7月1日号から周知は開始しているのですが、その前からできるかどうかは、今後、少し検討させていただきたいと思います。

区外の方もご利用できる状況になります。

#### ○石田（し）委員

考え方もう一つお聞きします。

区の体育館などの施設開放は、区民のみの利用が結構あったりするのです。体育館が開放されているときは、区民限定のところがあるのです。その辺の考え方というのは、僕は、今はこういう時代なので、広く利用者は受け入れて、その代わり、例えば、区民には区民割という部分で、ある一定のインセンティブを取ってやってあげるのがいいのかなと思うのです。何でかと言うと、今はこれだけSNSなどがあって、いろいろな人たちが発信してくれるわけです。品川区にこんなにいいプールがあるよと発信して、あっ、行ってみたいと思ったら、ここは区外の方でもオーケーだけれども、体育館が実際にあって、皆様がバスケットボールをやっていて、そういったものをSNSで上げたら、わあ、行きたい、行きたいと言って、行こうと思ったら、いや、区民しか駄目なのですよと言われてしまって、せっかくの区外の方たちも利用ができず、もし仮にそこが利用できたら、もしかしたら品川区はいいよね、品川区に引っ越そうかなという可能性にもつながってくるわけなので、ぜひそういった利用方法についても、改めて考えていただきたいと思いますけれども、その点について、少し教えてください。

#### ○三井スポーツ推進課長

体育館のフリー利用の件かと思いますが、一応、品川区に在住、在勤、在学まで使える、区外の方も使えるところはある状況ですが、基本的には区民優先にはなっているところになります。今後、体育館は非常に人気なところでありますので、そのバランスも考えながら、研究させていただければと思います。

#### ○高橋（伸）委員長



ほかにございますか。よろしいですか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○高橋（伸）委員長

ご発言がないようですので、以上で本件を終了いたします。

そのほかにその他で何かございますか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○高橋（伸）委員長

ないようですので、以上でその他を終了いたします。

以上で本日の予定は全て終了いたしました。

これもちまして、区民委員会を閉会いたします。

○午前11時23分閉会